

NO.	該当P (旧)	該当P (新)	意見内容	反映状況
1	巻頭	巻頭	<ul style="list-style-type: none"> ・表記誤り(船橋市第3次総合計画⇒第3次船橋市総合計画) ・PTAの解散の裏付けがなく、表現の修正が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画の表記について、指摘の通り修正 ・PTAの現況について、市内で解散という裏付けがないため、参加形態の見直しに修正
2	P1、 12	P5、 17	<ul style="list-style-type: none"> ・市民一人ひとりがまちづくりの主役です！と書いておきながら、まちづくりは町会・自治会、市民団体など団体が中心となっており違和感を感じる。 ・単身者や子供のいない夫婦は地域とつながりづらい、市の情報も届きづらい。指針に自分のことだと思える記載がないと自分事と思えない。自分たちがそこにいていいんだと思えるような内容にしてほしい。 ・市民一人ひとりの目線で考えた時に、町会をはじめとする団体に属していないと地域の輪に加われないのではないかという感覚になってしまう懸念がある。今後は団体ではない個人が参加出来る取組や機会がもっと必要になるのではないか。 ・「超高齢社会や人口減少社会が目前に迫っています。」とあるが、船橋市の65歳以上の高齢者の割合はすでに21%を超えており超高齢社会を迎えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが市民参加の担い手であることを示す目的で、冒頭の団体等の例示は削除し、「船橋のまちづくりは、市民一人ひとりや様々な団体によって支えられ～」に修正。 ・「全ての市民一人ひとりが～」の前に、「年齢、性別、世帯構成、文化的背景等を問わず」を追記。 ・「超高齢社会が到来し、人口減少の局面が目の前に迫っています」に修正。
3	P15、 16	P6	<ul style="list-style-type: none"> ・「船橋市人口推計(令和元年5月)」では、「コロナ禍以降に見られる出生率の低下により、人口減少が加速する懸念」は指摘していない。 ・ポータルサイトを充実させてもターゲットである高齢者が情報収集できなければ成果につながらない。学生が高齢者に情報収集術を直接継承するボランティア活動が有効ではないか。その活動を通して学生も高齢者の経験や知恵を学ぶことが出来、地域の声を行政にフィードバックすることで、既存のデジタルツールを全世代にとって使いやすいものへ改善する効果も期待できる。 ・高齢者自身によるデジタルスキルの習得とその普及活動は効果的な市民力の活用であり、行政との連携により今後更に広く市民に展開できると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・船橋市人口推計の説明から段落を落とし、文の始めに「また、直近では」を追加。 ・「より複雑化・高度化する課題」を「複雑・多様化する課題」に修正し、デジタル活用における課題の記載箇所を、「技術的な観点で高度な専門的知識～」という表現から、デジタルデバイドの影響に関する記述に修正。
4	P2、 4	P9	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域の中の」の文言について、市民参加や協働のあり方は多様なはずなのに、ここで地域に限定する必要もないのでは。地域に関わりたい人は地域でいいし、国家単位や国際社会、経済社会で活動したい人はそれでいいでしょう ・夏祭りは、酷暑の影響で秋に開催しているケースもあるので、「地域の祭り」など他の名称が良いのでは ・これからの参加は子育て世代や単身者になると思うので、そういう方が訴求できる事例を入れた方が良い。若い方にはハロウィンがいいのでは ・市民参加が本当に身近なものと思えてもらえるよう、例えば地域の祭りに参加したら、それを「SNSで発信すること」も参加としても良いのでは。少しでも「自分も仲間なんだ、これも役割の1つなんだ」と感じられれば、当事者意識や主体性に繋がっていくと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中の「身近な存在である仲間」の「地域の中の」は関係性を限定してしまうため削除し、記載箇所を市民参加の流れの説明部分へ修正。 ・巻頭で市民参加の定義づけをしたことにより、「市民参加について」の項目中「これも市民参加です！」の文言を「市民参加のはじめの一步」に修正。 ・夏祭りは秋に開催するケースも増えていることから、地域の祭りに修正。 ・若い世代にも浸透している「近所の人とハロウィンパーティをした」を追加。 ・「地域イベントに参加してSNSを投稿する」を追加。 ・市民参加の定義づけに伴い、「市民一人ひとりが自分のまちのことを考え、行動する」ことがまちづくりの原点であるという図は削除し、代替として市民参加が魅力あるまちづくりに繋がっていくという趣旨の文言に修正。
5	P6	P12	<ul style="list-style-type: none"> ・「具体的にはどんなものでしょうか」を「#どのようなものがあるでしょうか」に修正 ・市民委員とは何の市民委員なのか ・主体の例の事業者の中に商店、飲食店はなぜ入っているか。農水産業など他の業種も主体になるのでは。また力を入れているプロスポーツチームなどは入らないのか。 ・大学の強みは「広域連携」にあると考えており、キャンパスの有無に限らず様々な自治体とも連携している。その観点から「市外も含めた」主体もあるという視点での反映を期待する。 ・企業⇄行政間だけでなく、企業⇄市民(団体)や企業⇄企業などの連携を深化させるべく、包括連携協定の活性化と担当課間の連携を要望する。 ・商工会をはじめ、企業との更なる連携を深めてはどうか。 ・公民連携の説明を定義に沿って正確に記すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的には～の記載は指摘のとおり修正。 ・「審議会等の市民委員」に修正。 ・公共的団体の例に民生児童委員協議会を追加。 ・事業者は、全ての業種を「企業」とし、商店、飲食店は法人化していない場合も含め記載している。農業、水産業も協働事例があり、同様に法人化していない場合も含め「農業者」「漁業者」として追加。 ・分類に「プロスポーツチーム等」を新設し、例として千葉ジェッツふなばし、クボタスピアーズ船橋、千葉スカイセイラーズなどを追加。 ・P11の協働の主体を例示する表外に、注記として広域で活動する市外の主体も船橋の主体となり得る旨の文言を追加。 ・市と事業者との連携についての記載箇所を、包括連携協定に関する記述を追加。 ・公民連携の説明箇所を一部修正。

NO.	該当P (旧)	該当P (新)	意見内容	反映状況
6	P7	P13	<ul style="list-style-type: none"> ・推進イメージ図は理解はできるが、現実には主体間同士の力関係などからベクトルの向きや大きさも様々であり、間に入るコーディネーターの役割がとても大事だと感じた。 ・協働の原則である「対等な立場」が現実においてはなかなか実践されていないと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働の図にプロスポーツチーム等を追加。 ・コーディネート説明中、「主体間の調整を行うことで～」を「主体(=関係者)間の対等な関係づくりを支援しながら相互の調整を行い」に修正。
7	P9	P14	<ul style="list-style-type: none"> ・「協働は一時的なものではなく、持続的に取り組むことでその効果を高めていくことが重要」とあるが、それは場合にもよると考えるが必要か。 ・指定管理者制度自体は、協働の要素があるが、市が指定の処分を行い、各種承認を行うなど市が主体の要素が強い制度である。今回の素案では、協働の領域の説明が削除されているため、制度自体の誤解を招く可能性があるため修正願いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働の持続性の表現については、「協働もPDCAの観点で進めていくことが大切である」とし、掲載箇所を協働の類型の説明部分に修正。 ・指定管理者制度の説明後半部分で、「行政が主体となって方向性を示しつつ、その具体的な管理運営を、専門的な知識や技術ノウハウを有する法人等に管理を委ねる」に修正。
8	P2	P8	<ul style="list-style-type: none"> ・雪かきの事例はどちらかというと「共助」をイメージしてしまう事例ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「市民参加」および「協働」については、冒頭「はじめに」に用語解説を挿入したことに加え、協働の説明箇所においても基本原則や効果を列記し明確化した。雪かきの事例は、市民参加と協働の身近な例としてイメージしてもらうために、掲載箇所を第2章の冒頭に修正。
9	P10	P15	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参加による赤い糸と協働による青い糸、どう違うかが分かりづらい 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参加と協働の定義付けをしたことで、巻頭「はじめに」にて用語定義として違いを明確にした。その上で、推進イメージ図においては多様な市民が市民参加し主体となることが大切であるため、多様な市民を追加し、赤い糸はそれぞれの市民が主体に入る流れをイメージする図に修正。 ・推進のイメージ図において、中央に集まる矢印が活動の幅を制限してしまう懸念があるため削除。
10	P11	P16	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参加の促進で、「市民参加の方法や協働のあり方について検討」とあるが、協働のあり方は「協働の創出」ではないのか。市民参加に協働は含まれるのか。 ・意識醸成と行政の体制強化の説明があるが、変わる必要があるのは市民ではなく行政ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「協働のあり方」を削除し、「参加したい人がスムーズに参加できる仕組み」に修正。 ・職員の姿勢が変わる必要があることも、大切な視点であるため、強調する目的で、見出しの「意識醸成」の前に「職員の」を追加。
11	P12	P17	<ul style="list-style-type: none"> ・将来像の市民の箇所で世代、年代などを統一してはどうか。 ・「市民一人ひとりが地域のまちづくりや課題に関心を持ち」は市民参加のはじめの一歩としてはハードルが高過ぎるのではないか。 ・将来像の各団体の箇所で「地域の課題解決のため」の表現は活動の幅が制限されるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「全ての市民一人ひとりが～」の前に、「年齢、性別、世帯構成、文化的背景等を問わず」を追記し、例示の中の年代を問わずは削除。 ・市民の将来像において「市民一人ひとりが地域のまちづくりや課題に関心を持ち」の表現が活動を限定してしまうため、「身近な地域や広く社会に関心を持ち」に修正。 ・各団体の将来像において「地域の課題解決に向けて」の文言が活動を限定してしまうため、「各団体が掲げるそれぞれの目的に向けて」に修正。